



News Letter

ニュースレター

vol.28
2017.3

Contents

- 活動報告
- インタビューvol.07(西 晶子 助教)
- アカデミックアシスタント(AA)制度等利用者の活躍
- ベビーシッター利用の割引支援をしています
- 仕事と生活の両立応援ハンドブック(日英版)発行
- 男女共同参画室の7年間「見える化」ポスター公開予定
- 数字で見る本学の男女共同参画

活動報告 2016.9 - 2017.3

2016年11月13日(日)

サイエンスフェスティバル2016に参加



オープンキャンパス2016(高山サイエンスタウンフェスティバル)で男女共同参画室は、地域向けオープンキャンパスでは初の試みとして、授乳・オムツ替えスペース(臨時)を設置したところ、のべ23名にご利用いただきました。教職員向けの一時託児では、0歳から5歳までの子どもたち6名をお預かりしました。

2016年12月2日(金)

第9回男女共同参画推進シンポジウムを開催



物質創成科学研究科と男女共同参画室との共催によりシンポジウム「多様性を受容する社会に向けて～大学院に求められること～」を開催し、192名の出席がありました。参加者からは「女性に関するお話が多いと思っていたのですが、男女に関する話が多く面白かったです」などの感想が寄せられました。

2016年12月22日(木)

奈良県内初の産官学連携による生駒イクボス合同宣言式に参加



生駒市コミュニティセンターにおいて、やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるワークライフバランスを積極的に進めるため、生駒イクボス合同宣言式が執り行われ、生駒市役所、生駒商工会議所、生駒市内の企業46社および本学がイクボス宣言をしました。

2017年2月25日(土)

オープンキャンパス2017に参加



情報科学研究科・バイオサイエンス研究科・物質創成科学研究科の女子大学院生の研究生生活を紹介する資料(PDF)を参画室のURLにて公開しました。教職員向けの一時託児では、0歳から7歳までの子どもたち8名をお預かりしました。資料PDFは参画室HPで閲覧できます。



Lunch Meeting

ランチミーティングを開催



開催しました!

3研究科の教員や各部署の職員が参加し、ワークライフバランスや男女共同参画室の活動などについての意見交換、情報交換をしています。所属も職位もさまざまな方々と交流できる機会ですので、興味のある方はランチを持ってお立ち寄りください。

日時 毎月第1火曜日 12:30-13:30

場所 事務局棟1階男女共同参画室

2016年

9月6日 10月4日 11月2日 12月6日

2017年

1月10日 2月7日 3月7日

【中面】インタビュー

Interview

女性研究者 スタートアップ研究費 (教育研究助成)を受給して

西 晶子 助教
バイオサイエンス研究科
発生医科学(笹井研)

本学では、優秀な女性教員の採用促進を図るために、新規採用の女性教員の研究立ち上げに対して研究助成をおこなっています。平成21年から平成28年8月までに計23名の女性教員を支援してきました。今回は平成27年10月に着任されたバイオサイエンス研究科の西晶子先生をご紹介します。

スタートアップ研究費を受給して

本学の教員採用に応募した際、公募情報の一番下に女性研究者スタートアップ研究費の記載があり、採用されたらいくらかの研究費がつくのだろうと思ったことを覚えています。当時、イギリスの国立がん研究所に勤めていましたが、女性研究者向けの助成金は珍しいことではなかったので、本研究費に特に違和感はありませんでした。

私が笹井研究室に着任した年はラボが立ち上がってまだ半月で、細胞を対象とした実験器具が揃っておらず、研究室のセットアップが必要でした。スタートアップ研究費を利用して顕微鏡や試薬、ES細胞等を購入でき、スムーズに研究を始められたのは有り難かったです。ご支援ありがとうございました。また、このような支援を受けられるのも先駆者のご苦勞の賜物であると思っており、感謝したいです。

ただ、着任直前までイギリスにおりましたので、申請書の提出手続きには苦勞しました。研究費で何を購入すべきかは自分の目で研究環境を見てからでないとわかりませんし、事務手続きにおいては事務室を経由したやりとりにも時間がかかりました。また、笹井先生に書類の提出をお願いすることなどもありましたし、結局入金されたのは着任の1ヵ月半後でした。研究分野にも依ると思いますが、機器購入は着任後に申請できるようにするなど改善されるのもっとよいと思います。また現在、助成期間は着任後1年間ですが、個人の状況により半年延長するかどうかを後から変更することが可能になればもっと使いやすいかもかもしれません。そして女性対象とは別に、スタートアップ研究費が助教にあるとより活発になるのではないかと思います。

研究者への道のり

高校生のころまでは化学や物理が好きでしたが、大学入試直前に、海洋生物学の研究者である叔父のところで話を聞く機会があり、生物はもっと面白そうだと思いました。ちょうどヒトゲノム計画が完了した時(2003年)で、ゲノム解析の話題が豊富にあり、そちらに興味を持ったために、学部から博士後期課程まで分子遺伝学を専攻しました。2010年にポスドクとしてイギリスの国立がん研究所に勤め始めるときに分野を細胞生物学に変えることになり、ヒト細胞を扱うプロジェクトの立ち上げに関わりました。共同研究に取り組むなかで自分のやっていることが発生学の分野に関わりが強くあるのだとわかり、このまま同じ細胞生物学をやるか、統合して新しいことをやるかとなったときに、新しいことを挑戦したいと思い、発生医科学のラボである本学の笹井研に着任するに至りました。

「研究環境改善」をテーマに ミーティング @イギリス国立がん研究所

イギリスのがん研究所では、執行部は女性の割合が半分を占めていましたが、PI(グループリーダー)の女性割合は10~15%で、まだまだ低いと言われていました。3年ほど前にPI達が研究所のメンバーに声をかけて、女性が科学研究をするにあたって困っていることはないか、大変なことはないかを話すミーティングを始めました。そのミーティングでは、子どもを連れて学会参加するのが大変だとか、そもそも子育てと研究の両立は体力的にもたないかといった普段話などから、両立のために使える社会制度や資金資源は何かといった具体的な話題が出ていました。主にはどうやったらうまくバランスをとれるのか、その具体的な解決策を探ったり情報交換をしたりしました。参加

していた人の世代は60代から20代まで、女性ばかりではなくて、ノーベル賞をとった研究者も参加していた時もありましたし、学生もいました。結婚をしていたり、結婚しない関係で子どもがいたり、海外から家族を連れて赴任していたり。こういったさまざまなメンバーで研究環境の改善のためには何が課題かについて議論する機会がありました。

仕事の効率に関しては、イギリスと日本では大きな違いを感じます。特に事務手続きの効率化がもっとできないのだろうかと思います。今は出張に行くのも、物を買うのも書類が必要ですが、イギリスではシステム上で上司に当たる人が承認すればよいだけで、日本ほど時間がかかりませんでした。時間をもっと節約して、自分の研究のための時間や学生とのディスカッションに割きたいですね。



一日のスケジュール、 家事分担

自宅が大学まで車で1時間半と遠いこともあって、9時~9時半に大学に到着します。午前のうちに自分の実験を集中して行い、午後は続きの実験やミーティングが入ることが多いですね。帰りは19時前後に大学を出て、21時くらいに帰宅します。基本的に土日のどちらかには大学に来て実験をしています。プレートを取り込むだけなどのことは学生に協力してもらっていて助かっています。

夫とは博士後期課程を終えた時期に結婚して、ほぼ同じ時期に渡英しました。夫も同じ年に帰国し他の大学で研究者をしています。夫との家事分担はお互いに勤務時間がフレキシブルなこともあって、フィフティフィフティですね。朝私が準備をしている間に夫が朝ごはんをつくる、私が晩御飯をつくったら夫が洗剤物してくれる、日曜にまとめて掃除をするときは役割分担する、というような具合です。でも役所に出すような書類関係は夫がしてくれるので、もしかしたら夫の方が負担が大きいかもしれません。また、イギリスにいた期間は「日本にいたら行けないところに行こう」と二人でよく旅行しました。

これから研究者を目指す人 に向けて

研究者を目指す人に関わらず、将来の計画をこれしかないと考えないほうがいいのかなと思います。たとえば博士後期課程に進みたいと思った時に、博士号習得後どうするかは先に決めることはできず、博士研究の過程の中で決まっていくように思えます。私自身、先のことを考える時に、何が面白く感じていて、何がやりたいかのかを見つけるように動くということをしてきました。学生にも将来のことは決め付けなくてもいいと言っています。それは何もしなくていいということではなくて、とにかく興味があることが何か考える。そうやって自分に何ができるのかを常に考え、人にも聞いてみたりして、最終的に自分で選択する。それなら途中で止めるときも責任をもって止められます。とりあえずその選択肢をたくさん持つために、いろんなことに挑戦して欲しい。自分の選択肢を狭めないで、もっと自由に考えてもらえたらと思います。

また、研究者を目指すときに留学はとて面白い選択肢ではないかと思います。一度海外に出たら戻って来られる場所がないのではないかと不安があるのかもしれないですけど、もっと出て行ってもいいのではないかな。とくに女性の方が留学に向いているのかもしれないですね。女性の研究者も多いですから、選択肢を広げるためには留学はよいと思います。



Information

本学構成員の仕事と生活の両立を支援する各種制度は、利用者の活躍にも支えられ、さまざまに充実を図っています。

アカデミックアシスタント(AA)制度等 利用者の活躍

2016年
6月

AA制度(2015～)の利用者バイオ鳥山道則助教が第68回日本細胞生物学会の若手優秀発表賞を受賞

2016年
10月

スタートアップ研究費とAA制度(2015～)利用者バイオ大谷美沙都助教が、平成28年度日本植物学会賞奨励賞を受賞

2016年
12月

AA制度(2010～2015)利用者バイオ和田七夕子助教の研究成果が、英科学誌Natureの姉妹誌Nature Plantsに掲載。遺伝子の優劣関係を制御する新たな仕組みを世界で初めて明らかにされました。

ベビーシッター利用の割引支援 をしています

2017年1月より、ベビーシッター育児支援事業を実施しています。1日の利用料金から1家庭につき2,200円の割引が受けられます。

利用対象者は本学に勤務する教職員、対象となる子どもは0歳～小学校3年生まで等です。

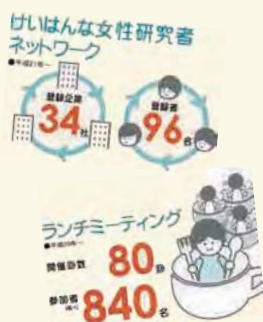
詳細は以下のURLをご覧ください。
<http://www.naist.jp/gender/contents/support/babysitter.html>



仕事と生活の両立応援 ハンドブック(日英版)発行

2017年1月、「仕事と生活の両立応援ハンドブック」の改訂版を発行しました。改訂のポイントは、(1)介護と仕事の両立に関する情報を掲載したこと、(2)全ページの英語翻訳版を用意したこと、(3)産休育休中の科研費の取り扱いを掲載したことです。ハンドブックを手にとりていただきやすいよう、ポスターも製作しました。教職員のみならず、皆さんの仕事と生活の両立にお役立てください。

下記URLよりダウンロードできます。
<http://www.naist.jp/gender/pdf/supporthandbook.pdf>



**男女共同参画室の
7年間「見える化」
ポスター公開予定**

本学に男女共同参画室が設立されたのは2009年9月。これまで7年間の活動実績を「見える化」したポスターを参画室HPにてまもなく公開予定です。

2017年2月現在

数字で見る /

男女共同参画

- 研究科別の女性教員率
情報6.2%、バイオ21.9%、物質8%
- 女子学生の在籍割合
情報11.9%、バイオ35.3%、物質16.4%
- 女性職員率
28.1%

